

2026年3月発行

かいばらえきけん やまとほんぞう

貝原益軒『大和本草』の漢方を読む

中国古典書への傾倒と自立化

矢嶋道文 著

健康長寿のバイブル
永遠のベストセラー 『養生訓』の貝原益軒

真の〈主著・ライフワーク〉晩年・畢生の大作
『大和本草』 全16巻

日本の〈本草学〉〈博物学〉史上の金字塔を
中国・朝鮮から日本の医薬〈漢方〉の歴史に
本格的に位置付ける『徹底』解説

● 初の『大和本草』本格読解 (現代語訳・書き下し・註)
● 充実の周辺・背景資料——本草学・漢方の歴史、農書(宮崎安貞)との比較、新出書簡(稻生若水宛)、益軒年譜、中日医薬学・漢方比較年表等——『大和本草』への初めてで最良の道案内



A5判・上製・クロス装・カバー
xiv+407頁 978-4-86688-247-5
定価(本体4,300円+税)

〔著者〕やじま・みちふみ 1948年、岡山県生まれ。関東学院大学名誉教授。博士(経済学)。一般社団法人日本漢方協会認定漢方相談師、葉山郷土史研究会会長。(著書)『近世日本の「重商主義」思想研究 貿易思想と農政』(御茶の水書房2003)、『有徳論の国際比較 日本とイギリス』(編著、クロスカルチャー出版2019)他

貝原益軒『大和本草』の漢方を読む

中国古典書への傾倒と自立化

矢嶋道文 著

関東学院大学名誉教授

2026年3月発行

学術資料出版
大空社出版

健康長寿のバイブル
永遠のベストセラー 『養生訓』の
貝原益軒

真の〈主著・ライフワーク〉
晩年・畢生の大作

『大和本草』 全16巻

● 初の『大和本草』本格読解 (現代語訳・書き下し・註)
● 充実の周辺・背景資料——本草学・漢方の歴史、農書(宮崎安貞)との比較、新出書簡(稻生若水宛)、益軒年譜、中日医薬学・漢方比較年表等——『大和本草』への初めてで最良の道案内

大著『大和本草』への待望の『本格』入門書

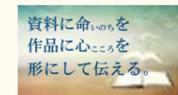
中国本草学の集大成・李時珍『本草綱目』(1596)を徹底“批判”解説し、日本(大和)の本草学樹立を目指した晩年・畢生の大作。

江戸期隆盛の本草学・博物学の流れの中、医・儒としての益軒が捉え、実践した〈漢方〉とはいかなるものだったのか。民・俗のために著す益軒の真骨頂が結晶する様を追う。

医薬論の根幹部と基礎理論編他を詳細に読解し、益軒の思想の本質に迫る意欲作、数年の熟考執筆をへて待望の刊行!

『養生訓』いま改めて
さらなる味読へ

最晩年の著『養生訓』は『大和本草』があって生まれた! 『養生訓』の深奥を理解するためにも『大和本草』は必読!



学術資料出版
大空社出版

eigyo@ozorasha.co.jp
TEL:042-306-3383 FAX:042-306-3384
〒189-0001 東京都東村山市秋津町5-24-13-101

第3章 本草の書を論ず

本草一 あらゆる草木、禽獸、虫魚、金玉、土石を記載した書は、『神農本草經』を始まりとする。三六五種を収める。これを「本經」とする。梁の陶弘景が『名医別録』を作り、『神農本草經』を補った。同じく三六五種である。以後、歴代の名医がそれぞれ増補していき、専門諸家の本草書も多くなり、優れた品がしだいに加えられた。明の李時珍は、本草書から品を選び集め、自己の見聞を加え、それまでの本草書を拡充した『本草綱目』を著し、万物が非常に多く備えられた。万曆六年に成った。本朝の天正六年にあたる。そこに載せられている品数はすべて一八九二種である。

凡艸木、禽獸、虫魚、金玉、土石ヲ記セシ書、神農本艸ヲ始トス。三百六十五種アリ。是ヲ本經トス。梁ノ陶弘景名医別録ヲ作り、神農本經ヲ増補ス。又三百六十五種アリ。コレヨリ以来歴代ノ名医各増益有り、諸家ノ本草多くシテ、名品漸ク加レリ。明ノ李時珍、歴代本草ノ内ヲ撰ヒ輯メ自己ノ見聞ヲ加ヘ之ヲ広メテ本艸綱目ヲ作り、品數凡一千八百九十二種ア

載る所ノ品數凡一千八百九十二種ア
〔註〕 *『名医別録』を作り——「陶弘景が『名医別録』に作られたと考えられているが、『本草經』と同様に『神農本經』の三品合わせて三六五を主とし、又進め

大倭本草卷之一
本艸ノ書ヲ論ス

本草の書を論ず

貝原篤信 (益軒) 1630 ~ 1714
『大和本草』

宝永 5 (1708) 成稿、翌年刻本全 16 卷刊行
正徳 5 (1715) 附録 2 卷・諸品図 3 卷

- * 李時珍『本草綱目』から主要項目を選択し、日本の本草を、自身の経験で裏打ちした分析眼で確定してなった「日本の」本草綱目。益軒思想の集大成と言える。
- * 若年時から読み込んだ膨大な本草書群の粹と、医者としての見聞を最大限に盛り込んだライフワーク。

大倭本草卷之二
論用藥

第4章 薬を用いるの論

用藥一 薬に五味・四氣・七情がある。七方十劑には「君臣佐使」・「升降浮沈」があり、服薬の禁忌には、妊娠の禁忌、飲食の禁忌、薬名の同異がある。また、李東垣〔註〕は証に合わせて薬を用い、その凡例等の諸説は『本草綱目』序例「李東垣随証用藥凡例」に詳述されている。熟覽しなくてはならない。

藥二五味・四氣・七情有リ。七方十劑は君臣佐使・升降浮沈有り。服薬の禁忌に妊娠の禁忌、飲食の禁忌、薬名の同異有り。又、李東垣証ニ隨ヒ薬を用ヒ、凡例等の諸説皆之ヲ本草序例ニ載セテ詳備ナリ。熟覽セざる可からず。

〔註〕 *五味・四氣・七情——五味〓甘・酸・辛・苦・鹹。四氣〓寒・温・熱・涼、四性ともいう。七情〓藥物配合の七種の異なつた作用を指し、単行、相須、相使、相畏、相惡、相反、相殺をいう。「漢方用語大辭典」(以下、「用藥一」)の註全体にわたる)

*七方——大方・小方・緩方・急方・奇方・偶方・復方。
大方〔註〕(大劑)〓邪氣が盛んで、兼証(兼挾む病証)があり重病の疾患に用いる。薬味が多く量も多い。多量の薬を一回で飲みきる。薬方例・大承氣湯。小方(小劑)〓邪氣が軽く、体の表面にあつて兼証を伴わない緩和な薬劑。薬味も少なく、回数を多く服用する。漢方例・葱鼓湯。緩方〓からだの抵抗力を増進し、病を自然に除去、慢性で虚弱體質の

第4章 薬を用いるの論

矢嶋道文 著
貝原益軒
『大和本草』の
漢方を読む
中国古典書への
傾倒と自立化

*2026年3月発行

第5章 薬類

大倭本草卷之六 艸之二
薬類

序章 貝原益軒と『大和本草』
貝原益軒略年譜／『大和本草』目録(全巻収録項目)
『本草綱目』『神農本草經』概説／研究史概観

第1章 自序(卷之一) 57

第2章 凡例(卷之一) 61

第3章 本草の書を論ず(卷之一) 75

第4章 薬を用いるの論(卷之二) 93

薬名弁疑 本邦誤用薬品 飲食を節する 数目類

第5章 薬類(卷之六) 197

人參 沙參 桔梗 薺萐 甘草 白朮 黄耆 当歸
地黄 紫蘇 薄荷 川芎 荊芥 萎蕤 黄精 地榆
香附子 忍冬 統断 連翹 附子 茵陳 :

第6章 薬木(卷之十一) 269

樗 椿 秦皮 山茱萸 胡頹子 木半夏 蘆薈 厚朴
芫花 五倍子 孩児茶 百葉煎 鬼箭 常山 丁香
桂 樟腦 檀香 沈香 槐 茯苓 :

まとめ 益軒の論点をたどる
補論 宮崎安貞『農業全書』にみる薬種栽培法
結び

附編 一 貝原益軒から稻生若水への書簡 357

二 中日医薬学・漢方比較年表 358~382

索引(書名・人名・地名・事項)

薬類一 人參

人參 參の字の本は濩、あるいは省いて溲という。人の手足のようである。故に人參という。朝鮮の産を上品とし、中国にもこれを用いる。中国では、また上党(豫州から魏にかけての)の人參を良しとする。寇宗奭がいう。上党郡のものはその値が銀と等しい、と。中国では銀と等きをもつてはなはだ貴としている。今、本邦に朝鮮より来るものは値が貴く銀の一〇倍以上はする。故に往々偽作のものがある。沙參(薬類二、薺萐、桔梗などの薬品をもつて真を乱すものが多い。これを選ぶには精詳でなくてはならない。大概、堅実であつて、偽作ではないものを用いるべきである。〇唐人參は、長崎に来るものが朝鮮に次ぐ。〇ヒゲ人參は人參の髭である。これもまた、異邦から来たもので本邦の産ではない。堅実であり、大人參の性の淡いことに勝っている。〇節人參というものがある。葉は芹に似ている。根に節があり髭が多い。山中陰湿の地に生じる。その髭を髭人參という。節人參はその大きな根をいう。薬店でその根と髭を売るのが味は苦く氣を泄する。人參の氣味とは違うので用いてはならない。草医が、これをもって人參に代へて用い

第6章 薬木

大和本草卷之十一
薬木

薬木一

樗 此の木は世に知る人が稀である。葉は白膠木に似て長大であり、臭い。その樹は節が多く、歪み、曲がり、材木とならない。故に古書に悪木なりという。小さい時はとげが多く、長大になればとげがなくなる。この木は日本に元々ある。京都にあり、また北州(北山から北の地方)にもあるという。近年唐から来た香椿によく似ている。同類である。花があり、実がある。鳥は好んでその実を食べる。日本人は樗と椿とを知らないで先年朝鮮人が来た時、二つの木はいずれの木かと問うた際、朝鮮人も知らずに誤まり偽つて他の木を樗であると答えたという。樗を「おうち(アフチ)」と訓ずるのは誤りである。「おうち」は棟葉木也である。

此の木、世に知る人まれ
ナリ。葉ハヌルテニ似テ長大ナリ。
臭シ。其の樹節多クユカミ、マカ

